



# 米商進路だより

令和3年10月8日発行  
山形県立米沢商業高等学校  
進路指導部（第17号）

## 《 10月5日現在 就職の合格内定状況（40名） 》

9月16日（木）に就職試験が全国一斉に解禁となり現在までに40名が合格内定をいただくことができました。3年生の就職希望者の皆さんは、8月上旬の就職推薦会議終了後から履歴書の作成、面接の練習等に膨大な時間をかけて準備を進めてきました。作文、SPI試験、適性検査等を課す企業があり、それぞれが合格内定をいただくために、学習をしてきた成果が結果に繋がったことは嬉しい限りです。

6月以降に本校を訪れていただいた企業の採用担当者の皆様と情報交換をさせて頂く中で、「本校から採用したい」という声をたくさんいただきました。本校の卒業生の活躍を見て引き続き採用したいという企業や「事務職」を採用するのであれば、簿記会計を学び、加えてパソコンのスキルを身につけている生徒が望ましいという声を多くいただきますが嬉しい極みです。

今年度の就職希望者の合格内定状況を見ると県外の合格内定の割合は約20%になりました。今年も新型コロナの影響があり、例年に比べて観光業を含めた「販売」の求人数が激減していますが、今後、Gotoトラベル等の施策が再開されれば人流が大きく変わることが予想され、これまで休業していた飲食店は営業を再開し、経済だけでなく雇用も回復することを期待しています。

また、世代交代を進めたい企業は、高校生の採用に積極的であり、この傾向は次年度以降も続くかもしれません。先日、1年生は「置賜の企業を知る」地域学習で企業の仕事内容を理解することができました。11月には引き続き企業の皆様からお越しいただき「仕事を体験する」こととなります。各企業の仕事内容を知り、仕事を体験することで視野が広がるのではないのでしょうか。

## 《 「業種」別合格内定状況 》

製造	医療・福祉	情報通信	卸売・小売	金融・保険	サービス等
17名	4人	1人	9人	4人	5人

## 《 「職種」別合格内定状況および県内&県外の内定人数 》

事務	販売	サービス	生産工程	県内	県外
24人	5人	2人	9人	33人	7人

裏面に本校の先生方から進路実現に向けて高校のときの体験談をいただいています。高校入学後の「先生の一声」、通学路での「ひらめき」、人との「出会い」等、それぞれの先生方にとって、些細なことだけでも人生を左右するような“出来事”があり、具体的な目標を持って、行動力と実践力を養った結果、今の仕事に結びついていることが分かりました。何度も何度も読み返してみてください。

## 《 第4回 1・2年生 進路達成へのアドバイス(本校教職員から) 》

私の高校時代は、「長い長いトンネルの時代」であった。いろいろな悩み、失敗し、絶望し、憧れ・・・この辺りは高校時代にずっとつけていた日記に詳しい。(私が、高校を卒業する時、「こんな日記、もう絶対見たくない!!」と、セロテープでぐるぐる巻きにして、押し入れの奥に、ほうり投げていた。・・・その後、数十年経って、出てきて、恐る恐るセロテープをハサミで切り、その日記は、今でも手元にある。)妻にも、その日記の存在すら話していませんが、これまで、これを他人に見せたのは、3年ぐらい前、本校生のK君だけでした。

どのようにして、進路を決めた?・・・思い出すのは、高校3年の登校途中の事だ。米沢駅から高校に向かい、ちょうど米沢警察署あたりの十字路で、赤信号を待っている時であった。ふつと・・・、「英語の指導者になって、生徒に実力をつけさせる教員になれば、かなり大変な仕事ではあろうが、やりがいのある仕事になるのではないだろうか?」と、思った。突然、ふつと思ったのである。(今考えると、その時、思っただけじゃなかったら・・・と、つくづく思う。(ここ笑うところ。))こんなもんだよ、人生の方向性を決めるのは・・・。(T先生)

高校1年次米商「商業科」に入学するものの、つまらなくて学校を辞めたいと思った4月、学年主任と担任の先生に、米商からでも大学に進学できると諭され、辞めるのを思いとどまり、苦手な商業科目(特に計算実務)に苦勞しながら(簿記の検定は合格したけど)、学校の成績は授業に集中し点数を保ち、自宅では大学進学(一般)に向け、「ラジオ講座」や「進研ゼミ」で毎日家庭学習しました。3年間の評定平均値はそこまで高くなかったので、「福島大学」の学校推薦は無理でした。そこで国士舘大学政経学部経済学科の一般試験(センター試験の1年前)で合格し、せっかく大学に行くのだからということで、「商業科」の教員免許を取得しました。(M先生)

高校卒業後は直ぐに就職するつもりでした。当時は、ひと学年に270名もいて、1つの企業に推薦される人は1~2名だけと聞かされ、その倍率の高さに衝撃を受けました。それで、友人たちに負けないよう勉強も部活動も生徒会も一生懸命にやっていました。3年生になって、進路を決めようとしているとき、担任から進学してはどうかと言われ、進学を意識するようになりました。まだ、パソコンがなく一般的には算盤の時代ですが、これからはコンピュータの技術を持っている方が良いと思い、プログラマーを目指し情報工学科に進学しました。そして、卒業を迎えたときに、今度は教員になりたいと思うようになり、商学科に入学し商業科教員になりました。振り返ると、私の進路希望は変わってばかりです。自分に何が合っているのか、何をやりたいのかをいつも考えていたように思います。様々変わりましたが、その時々選択は正しかったと思います。また、その時々学んだことは無駄ではなく役立っているとも感じています。(K先生)

小学6年生の時に、英語教室に通い始めた。海外経験豊富な先生の視野の広さとあたたかさ、自由な雰囲気が大好きだった。私も将来は自分で英語教室を開いてみたいと思い、英語と経営両方学ぶことができる米商に入学した。実は英語以外にも熱烈に好きなことがあったが、進路を決める際、自分の適性をよくよく考えてみて、だいぶ悩みながら、英語の道を進むことに決めた。クラスメイトの進路が続々と決定する中、推薦入試に何度も失敗。似たような境遇の友だちと図書館で勉強した。最終的には一般入試で短大を受験、短大卒業後四年制大学に編入学した。大学卒業後は私が英語を好きになるきっかけとなった英語教室で冒頭に出てきた憧れの先生と一緒に働かせていただいた。その後不思議なご縁があり高校の教員となった。だいぶ寄り道や遠回りをしているが、私にとって必要な時間だったことはまちがいない。(H先生)

前回の執筆は、佐藤敬一先生、岡村孝志先生、中嶋高彦先生、菊地湾先生です。